

平成28年熊本地震 調査報告

熊本地震による構造物の現状を調査しました。

NETIS登録番号: KK-160008-A

■坂本温泉センター駐車場 / 規模: H=12m、L=41m、竣工: 1994年

■チサンウォールは健全でした。

短期間に200回を超える地震動を観測した熊本県八代市坂本町のチサンウォールは、施工後20年以上が経過していますが、地震発生後、クラックや損傷など異常は見つからず健全でした。



■チサンウォールの壁面材は厚みがあり、その形状から自立する大型積みブロックです。そのため壁際まで大型ローラーによる転圧が可能で、しっかりと締め固める事ができ、従来の薄い壁面材に比べ**強固な盛土構造体が構築**できるのです。また、壁面材とタイ材の連結部の工夫により高い連結強度と沈下に対する追随性も兼ね備えております。

こうした特長が耐震性を高め、今回のような地震でもチサンウォールが健全であった理由と考えられます。

壁面材にコンクリートスキンを使用した補強土擁壁と違って、チサンウォールは地震国日本において、非常に有効で適した工法といえます。



■その他、人吉工事事務所管轄の同地域に土捨場として施工されたダブルウォールも現地踏査を行い、健全な状態を確認しました。

調整池護岸工

■ブロック・ノンは健全でした。

気象庁、防災科学技術研究所のまとめより、調整池地点での最大震度は6強、最大加速度は700～800galはあったであろうと推測されます。

そうした大きな地震動を受けて、法面などにいくつかの亀裂を確認しましたが、護岸擁壁本体であるブロック・ノン自体に目立った変状は認められませんでした。



-- A調整池 --



-- B調整池 --



-- C調整池 --

■鋼製補強土壁ブロック・ノンの壁面材は剛性が高く、壁際までしっかりと転圧ができます。しかも、面状の補強材を各段に全面敷設しており、効果的に締固めができ、強固な品質の高い盛土構造物を構築することができます。

また、ずらし積みで沈下に対する追従性も高く、沈下に伴う壁面材座屈の心配がないのも特長です。

今回の大きな地震動を受けて、ブロックノンは耐震性にも優れた工法であることが実証されました。

